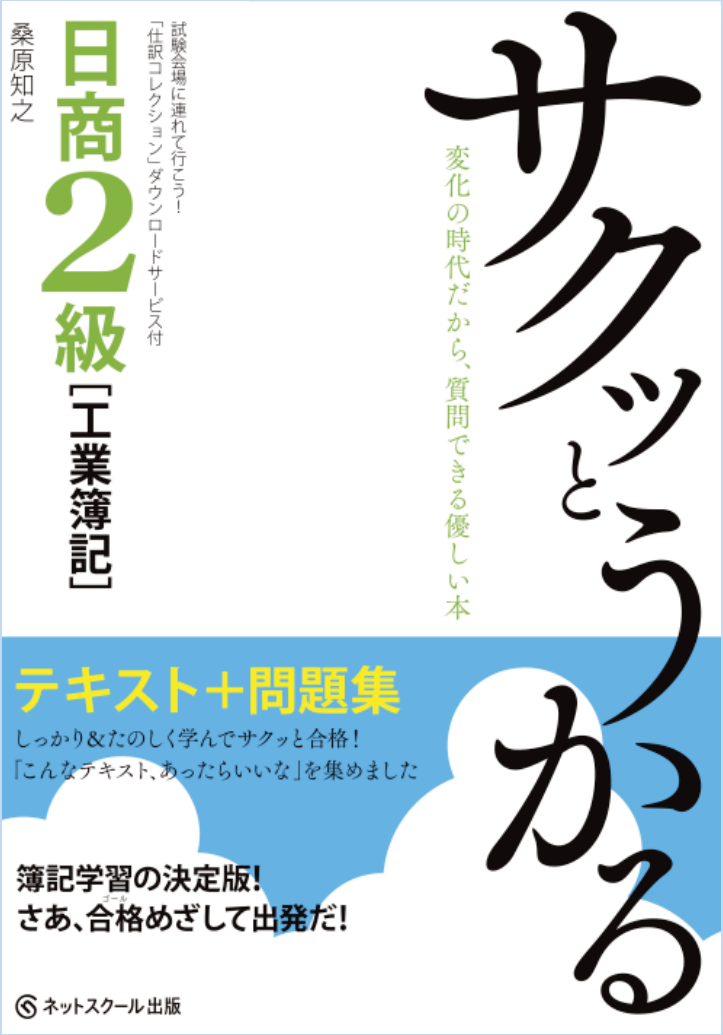
サクッとうかる
仕訳コレクション



2016 年 2 月 28 日公開

仕訳1　材料費　第2章

材料50kg（@100円）を掛けで購入した。なお、運送会社に引取運賃500円を現金で支払った。

（借）材料	5,500	（貸）買掛金	5,000
		（貸）現金	500

仕訳2　材料費　第2章

以前に掛けで購入していた材料5kg（@200円）を返品した。

（借）買掛金	1,000	（貸）材料	1,000

仕訳3　材料費　第2章

以前に購入していた材料（2,000円）のうち直接材料として1,000円、間接材料として500円を消費した。
勘定科目：材料、仕掛品、製造間接費

（借）仕掛品	1,000	（貸）材料	1,500
（借）製造間接費	500		

仕訳4　材料費　第2章

材料の月初有高は10 枚(@100円)、当月購入数量は90枚(@120円)、月末有高は15枚、当月消費数量は85枚であった。
先入先出法によって当月材料消費額を計算しなさい。

当 月 材 料 消 費 額：　10, 000円

仕訳5　材料費　第2章

材料の月初有高は10枚(@100円)、当月購入数量は90枚(@120 円)、月末有高は15枚、当月消費数量は85枚であった。
平均法によって当月材料消費額を計算しなさい。

当 月 材 料 消 費 額：　10, 030円

仕訳6　材料費　第2章

材料の月末帳簿数量は15枚、実地棚卸数量は12枚であった(消費単価は@100 円)。なお、棚卸減耗の数量は正常な範囲内である 。
勘定科目:材料、仕掛品、製造間接費

(借) 製　造　間　接　費	300	(貸) 材　料	300

仕訳7　材料費　第2章

直接材料として材料10枚を消費した。予定消費単価は＠110円である。
勘定科目：材料、仕掛品、製造間接費

（借）仕掛品	1,100	（貸）材料	1,100

仕訳8　材料費　第2章

材料の実際消費単価は＠120円であった。なお、当月に直接材料として材料10枚を消費しており、予定消費単価＠110円で計算している。材料消費価格差異を計算しなさい。

材料消費価格差異：100円（不利差異）

仕訳9　材料費　第2章

材料を掛けで購入した。材料の購入代価は80，000円であり、材料副費については購入代価の10％を予定配賦した。
勘定科目：材料、材料副費、買掛金

（借）材料	88,000	（貸）買掛金	80,000
		（貸）材料副費	8,000

仕訳10　労務費　第2章

当月の賃金10,000円のうち、所得税1,000円と社会保険料400 円を控除した金額を現金で支払った。
勘定科目：現金、賃金・給料、預り金

（借）賃金・給料	10,000	（貸）預り金	1,400
		（貸）現金	8,600

仕訳11　労務費　第2章

当月の賃金の支払額は20, 000円、前月未払額は2, 000円、当月未払額は3, 000円であった。当月賃金消費額を計算しなさい。

当月賃金消費額：　21,000円

仕訳12　労務費　第2章

当月の直接工の作業時間は次のとおりである。なお、直接工の消費賃率は@200円である。
直接工の作業時間：直接作業時間　50時間
間接作業時間　10時間
勘定科目：賃金・給料、仕掛品、製造間接費

（借）仕掛品	10,000	（貸）賃金・給料	12,000
（借）製造間接費	2,000		

仕訳13　労務費　第2章

当月の間接工の賃金消費額は5, 000 円であった。
勘定科目：賃金・給料、仕掛品、製造間接費

（借）製造間接費	5,000	（貸）賃金・給料	5,000

仕訳14　労務費　第2章

直接工の実際直接作業時間は10時間であった。なお、予定賃率は＠150円である。
勘定科目：賃金・給料、仕掛品、製造間接費

（借）仕掛品	1,500	（貸）賃金・給料	1,500

仕訳15　労務費　第2章

当月の実際の賃金消費額は1,300円（＠130円）であった。なお、当月の実際直接作業時間は10時間であり、予定賃率＠150円で計算している。賃率差異を計算しなさい。

賃率差異：200円（有利差異）

仕訳16　経費　第2章

当月の外注加工賃は20, 000円(現金払い)、減価償却費(1カ月分)は1,000円であった。
勘定科目:現金、減価償却累計額、仕掛品、製造間接費

(借)	仕掛品	20,000	(貸)	現金	20,000
(借)	製造間接費	1,000	(貸)	減価償却累計額	1,000

仕訳17　本社工場会計　第　章

本社で材料100円を掛けで購入した。材料は工場の倉庫で受け入れた。工場の仕訳を示しなさい。
工場の勘定:材料、賃金・給料、製造間接費、仕掛品、製品、本社

(借)	材料	100	(貸)	本社	100

仕訳18　本社工場会計　第　章

工場で材料(直接材料費50円、間接材料費20円)を消費した。
工場の仕訳を示しなさい。
工場の勘定:材料、賃金・給料、製造間接費、仕掛品、製品、本社

(借)	仕掛品	50	(貸)	材料	70
(借)	製造間接費	20			

仕訳19　本社工場会計　第11章

製品90円が完成した。工場の仕訳を示しなさい。
工場の勘定：材料、賃金・給料、製造間接費、仕掛品、製品、本社

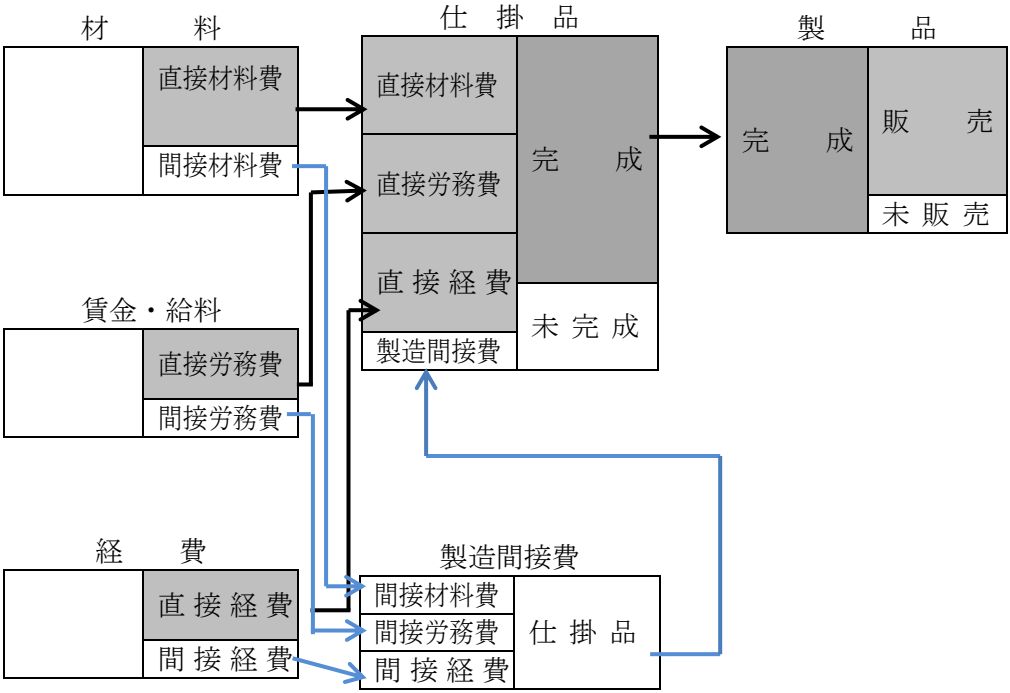
（借）	製　品	90	（貸）	仕　掛　品	90

仕訳20　本社工場会計　第11章

本社は得意先に製品120円を掛けで売り上げた。なお、本社の指示で、工場は製品（原価90円）を得意先に送った。工場の仕訳を示しなさい。
工場の勘定：材料、賃金・給料、製造間接費、仕掛品、製品、本社

（借）	本　社	90	（貸）	製　品	90

Point1 基本的な工業簿記の勘定の流れ　第１章

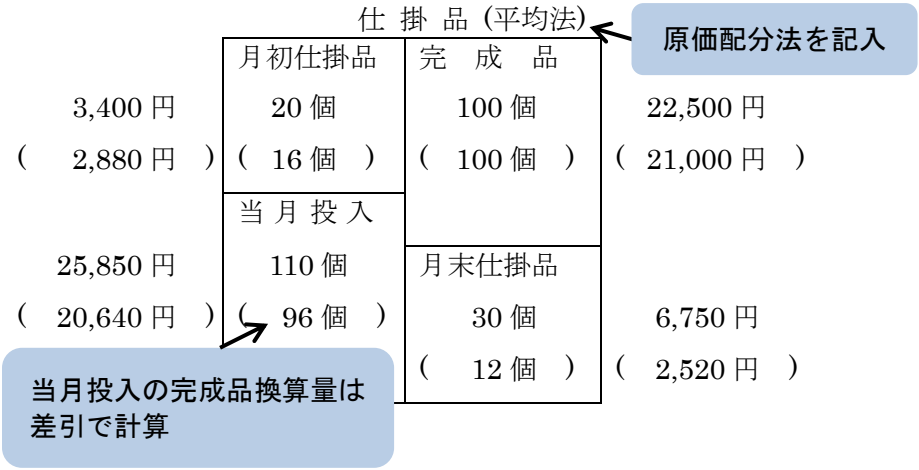


Point2 製造直接費と製造間接費　第１章

材料費	直接材料費	主要材料費、買入部品費
	間接材料費	補助材料費、工場消耗品費、消耗工具器具備品費
労務費	直接労務費	直接工賃金のうち直接作業分
	間接労務費	直接工賃金のうち間接作業分、間接工賃金、工場の管理者や事務職員の給料、その他（従業員賞与・手当、法定福利費、退職給付費用など）
経　費	直 接 経 費	外注加工賃
	間 接 経 費	減価償却費、水道光熱費、棚卸減耗費、賃借料、租税公課、保険料、福利施設負担額など ＊工場で発生するものに限る。

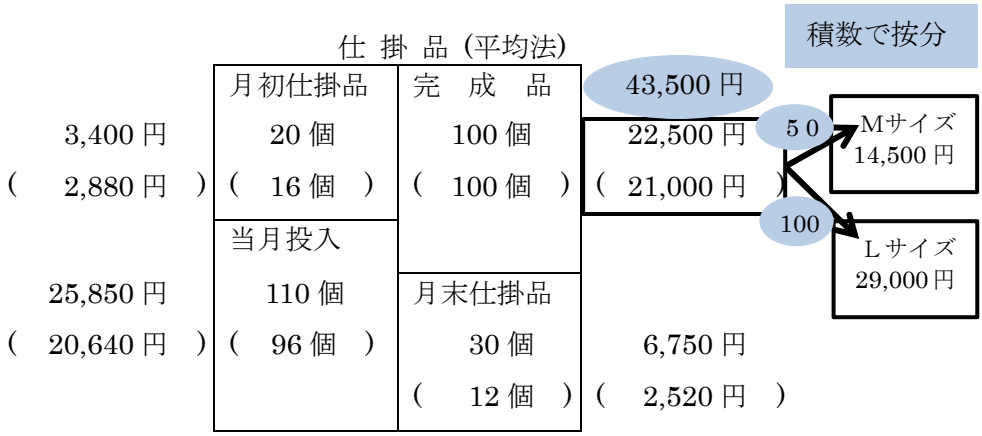
Point3 総合原価計算のボックス図　第４章

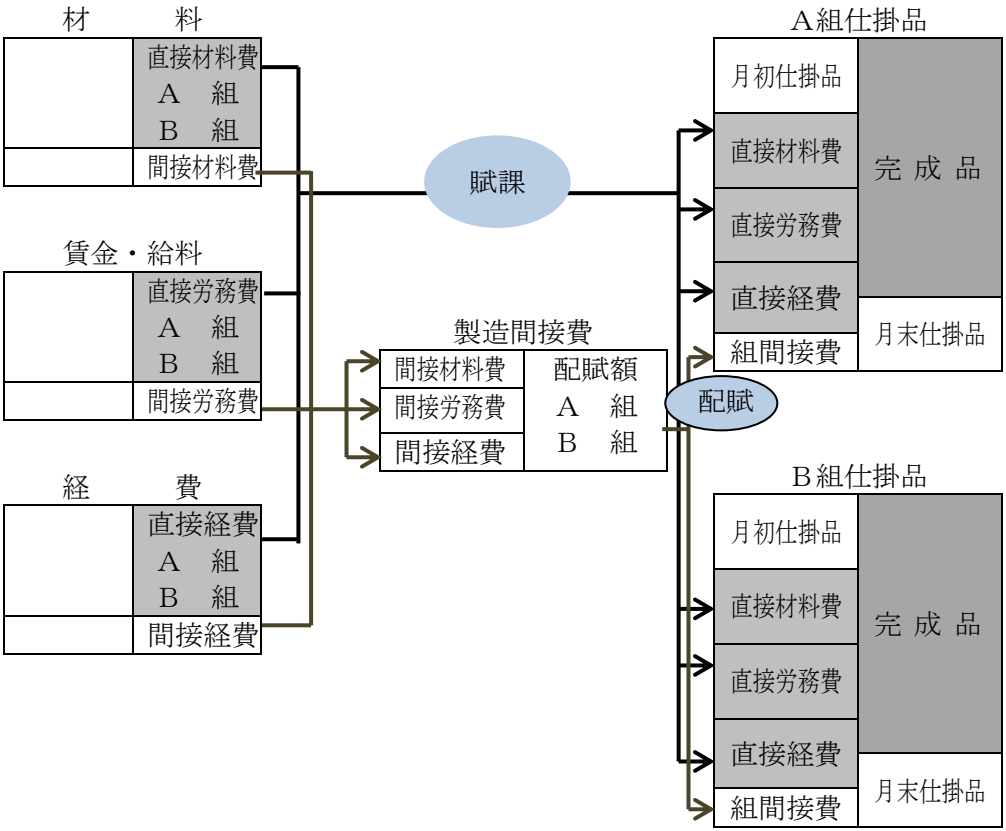
・ボックスの内側には数量、外側には金額を記入
・加工費のデータには（　）をつける
・完成品換算量は仕掛品数量に加工進捗度を掛ける



Point4 等級別総合原価計算のボックス図　第４章

・完成品総合原価を各等級製品積数（各等級製品の完成品数量×等価係数）で按分して各等級製品の完成品総合原価を計算




材　料
直接材料費
A　組
B　組
間接材料費
賃金・給料
直接労務費
A　組
B　組
間接労務費
経　費
直接経費
A　組
B　組
間接経費
賦課
製造間接費
間接材料費
間接労務費
間接経費
配賦額
A　組
B　組
配賦
A組仕掛品
月初仕掛品
直接材料費
直接労務費
直接経費
組間接費
完成品
月末仕掛品
B組仕掛品
月初仕掛品
直接材料費
直接労務費
直接経費
組間接費
完成品
月末仕掛品

Point6 工程別総合原価計算のボックス図

・第１工程完成品総合原価を第２工程に前工程費として切り替える
・前工程費の計算は材料費の計算と同様

第一工程仕掛品（平均法）

	月初仕掛品	完　成　品	
18,200 円	100 個	300 個	54,000 円
（ 14,600 円 ）	（ 60 個 ）	（ 300 個 ）	（ 72,000 円 ）
	当月投入		
46,600 円	260 個	月末仕掛品	
（ 63,160 円 ）	（ 264 個 ）	60 個	10,800 円
		（ 24 個 ）	（ 5,760 円 ）

126,000 円
第 2 工程へ
（前工程費）

第二工程仕掛品(平均法)

	月初仕掛品	完　成　品	
35,500 円	80 個	260 個	109,200 円
（ 10,090 円 ）	（ 56 個 ）	（ 260 個 ）	（ 46,800 円 ）
	当月投入		
126,100 円	300 個	月末仕掛品	
（ 45,350 円 ）	（ 252 個 ）	120 個	50,400 円
		（ 48 個 ）	（ 8,640 円 ）

完成品のみ負担の場合
…正常仕損費（正常減損費）は完成品の原価に含める

正常仕損費は完成品の原価に含める

仕　掛　品

	月初仕掛品	完　成　品	
0 円	0 個	200 個	56,700 円
(0 円)	(0 個)	(200 個)	(49,350 円)
	当 月 投 入		
		正 常 仕 損	
75,600 円	280 個	10 個	
(57,575 円)	(245 個)	(10 個)	
		月末仕掛品	
		70 個	18,900 円
		(35 個)	(8,225 円)

両者負担の場合
…正常仕損（正常減損）はそもそも発生しなかったと考えて処理する

仕　掛　品

	月初仕掛品	完　成　品	
0 円	0 個	200 個	56,000 円
(0 円)	(0 個)	(200 個)	(49,000 円)
	当 月 投 入		
		~~正 常 仕 損~~	
75,600 円	270 個	~~10 個~~	
(57,575 円)	~~280 個~~	月末仕掛品	
	(235 個)	70 個	19,600 円
		(35 個)	(8,575 円)

正常仕損分はそもそも投入しなかったと考えて当月投入数量から差し引く

Point8 材料の追加投入　第 5 章

①材料の追加投入時点が月末仕掛品の加工進捗度より後の場合
…追加投入した材料費はすべて完成品の原価とする。
②材料の追加投入時点が月末仕掛品の加工進捗度より前の場合
…追加投入した材料費は完成品と月末仕掛品に按分する。
③工程を通じて平均的に追加投入する場合
…加工費と同様に、完成品換算量を用いて計算

Point9 標準原価計算における差異分析図　第 6 章

・標準データから実際データを差し引いてプラスになったら有利差異（貸方差異）
・標準データから実際データを差し引いてマイナスになったら不利差異（借方差異）

直接材料費差異

実際価格 @410 円
標準価格 @400 円

価格差異 （@400 円－@410 円）×130m＝（△）1,300 円	
標準直接材料費	数量差異 @400 円× （125m－130m） ＝（△）2,000 円

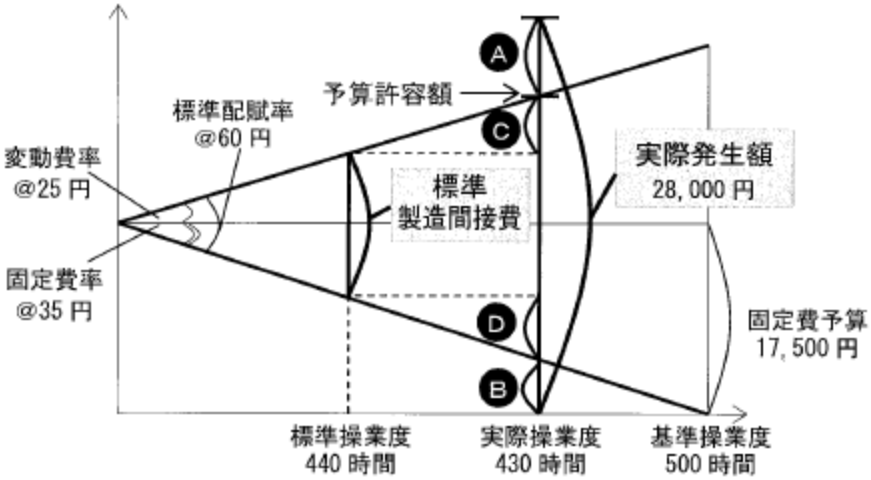
標準消費量 125m　実際消費量 130m

直接労務費差異

実際賃率 @42 円
標準賃率 @40 円

賃率差異 （@40 円－@42 円）×430 時間＝（△）860 円	
標準直接労務費	作業時間差異 @40 円× （440 時間－430 時間） ＝（＋）400 円

標準作業時間 440 時間　実際作業時間 430 時間



製造間接費（公式法変動予算の場合）

Ⓐ予算差異＝予算許容額－製造間接費実際発生額

@25 円×430 時間＋17,500 円－28,000 円＝（＋）250 円

Ⓑ操業度差異＝固定費率×（実際操業度－基準操業度）

@35 円×（430 時間－500 時間）＝（△）2,450 円

能率差異＝標準配賦率×（標準操業度－実際操業度）

@60 円×（440 時間－430 時間）＝（＋）600 円

Ⓒ変動費能率差異＝変動費率×（標準操業度－実際操業度）

@25 円×（440 時間－430 時間）＝（＋）250 円

Ⓓ固定費能率差異＝固定費率×（標準操業度－実際操業度）

@35 円×（440 時間－430 時間）＝（＋）350 円

Point10 直接原価計算による損益計算書　第７章

損益計算書（直接原価計算）		
Ⅰ　売　上　高		1,000
Ⅱ　変動売上原価		400
変動製造マージン		600
Ⅲ　変動販売費		200
貢献利益		400
Ⅳ　固　定　費		
１．固定製造原価	200	
２．固定販売費及び一般管理費	100	300
営業利益		100

$$変動費率＝\frac{変動費}{売上高}$$　　$$貢献利益率＝\frac{貢献利益}{売上高}$$

Point11 ＣＶＰ分析　第７章

・簡単な直接原価計算の損益計算書（売上高をＳとするか販売個数をＸとする）を作成して解く

損益計算書（売上高＝S）	
売上高	S
変動費	0.4S
貢献利益	0.6S
固定費	120
営業利益	0.6S－120

損益計算書（販売個数＝X）	
売上高	10X
変動費	4X
貢献利益	6X
固定費	120
営業利益	6X－120

・損益分岐点の売上高（販売個数）を求めるときは、
　0.6S－120＝0 円
　　S＝200
・目標営業利益を達成する売上高（販売個数）を求めるときは、
　6X－120＝目標営業利益
　　X＝20